

日本製品の競争力を上げる ソフトウェアの国際化を支援 2つのツールの導入を軸に

OSやワープロなどのビジネスソフトが分かりやすいが、日本のソフトウェア市場は海外製品に席巻されている。逆に言えば、日本発のソフトは海外に進出しなければ稼げない時代に入ったといえる。『單に翻訳するだけでは受け入れられません。』『外国の

国際化JP

東京都千代田区内神田1-1-5
TEL.03-5283-9925
<http://www.kokusaika.jp>



末廣陽一
社長

ソフトは使いづらい』と思われないように、文化や習慣への対応も必要になります』
そう話すのは、国際化JP株式会社（資本金950万円）の末廣陽一社長だ。同社はソフトウェアの国際化を支援するという事業を中心に展開する、ここ日本では珍しい企業。

同社が理想とするのは、言語や文化、習慣への対応をスマートにするためにも、全世界で汎用的な部分がなるべく多くなるようあらかじめソフトウェアを設計することだ。そのメリットは数多い。少ない投資で新たな国へ進出できる。発売日も早くでき、各国で同時出荷が可能。修正やアップデートもほぼ各国で同じなので、かかるコストや時間も少なくすることができます。

「標準化されているので、

安い労働力を頼って海外で開

発するオフィショア開発を採用

したとしても、品質確保が容

易になります」（末廣社長）

最初は海外展開を予定してい

ないソフトでも、同社の提唱する国際化を施した設計を

しておけば、いざ進出となっ

た際も安心だといえる。

同社では、このソフトウェ

アの国際化において、2つのツールの導入を提案している。

1つは「WorldWide Nav

i」と「WorldWide Nav

（龟）

20年前から国際化に取り組む 意義を啓蒙する役目も担う

OSやワープロなどのビジネスソフトが分かりやすいが、日本のソフトウェア市場は海外製品に席巻されている。逆に言えば、日本発のソフトは海外に進出しなければ稼げない時代に入ったといえる。『單に翻訳するだけでは受け入れられません。』『外国の

そう説明する末廣社長。一年前に同社を設立したが、その約20年前にさかのぼる1987年から、UNIXやLinuxなどOSの国際化に取り組んできた人物だ。1998年には共著で『国際化プログラミング』（18Nハンブック）を共立出版から出

W i d e N a v i などの中でも進めていきたいですね』
と展望を話す末廣社長。同社では、日本国内でもソフトウェア国際化についてのセミナーを不定期に開催している。開催日などを告知するメール配信の登録が、同社のサイトから可能だ。

d e N a v i ）。これは、ソフトのプログラムを解析し、国際化する上で問題となる個所を抽出し、どのように修正すればいいか教えてくれるという開発支援のツールだ。開発の現場だけでなく、大学の授業でも活用されている。

